

行財政改革推進「市民対話集会」意見交換の内容

日 時	平成23年6月26日（日） 午後1時～午後3時55分
場 所	大須賀中央公民館 ホール
出席者	田中啓会長、米田博文副会長、石野哲也委員、伊藤鋭一委員、窪野愛子委員、鈴木純一郎委員、寺嶋慈子委員、西村康正委員、松本春義委員、水谷陽一委員
掛川市	松井市長、伊村副市長、松井理事、川隅総務部長、深川企画政策部長、斉藤財政課長、栗田企画調整課長、山本財政課主幹、鈴木企画調整課主幹、都築行革推進係長、新貝
参加者	329名

（意見交換の内容）

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 市の説明
- 4 行財政改革審議会の説明
- 5 意見交換

企画調整課長

それでは、次第の5番の意見交換にただ今から入りたいと思います。意見交換でございますが、本日はこれまで以上に市の行財政改革に関心を持っていただくことや、行財政審議会分科会ごとの独自調査事項の検討に反映させるために、行財政改革の取り組み内容や、行財政改革審議会の活動内容をみなさまに先ほどお伝えいたしました。市民のみなさま方のご意見を今後もお聞きをしてですね、これらに反映をすることを目的に、今から意見交換会を開催をしたいと思います。多くの提案、あるいはアイデアなどをお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

まず、進め方でございますが、2、3人の方にはですね、続けて1、2のご意見をいただきまして、それに対して審議会、あるいは市側からですね、感想等を述べさせて

いただきたい、こういった形式で進んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ご意見のある方については、挙手をしていただいて、そうしましたら係員がマイクをお持ちいたしますので、できましたら地区とお名前を言っていただいて、ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。行革審、あるいは市の進め方等について、ご意見がございましたらお願いしたいと思っております。はい、女性の方。

質問者

こんにちは。すみません、資料を見ながらお話させていただきます。今日お話を伺いまして、まず一つに、市としての将来を見据えたグランドデザインというのに欠けているのではないのかという印象を持ちました。

それから、2つ目に削減目標ですけれども、現在のやり繰りの収支合わせというのか、そうしたものであるという印象が否めません。理由としましては、削減の目標ですけれども、非常に甘すぎると思っています。例えば、経常収支比率ですけれども、10年後ですか、三十何年後、経常収支比率が80%以下となっていますけれども、健全な自治体を運営していくためには、やはりこれは70から80%ぐらいでなくてはいけないのではないのかという、私の考えですけれども。それから、将来の負担比率が130%以下となっていますけれども、やはりここら辺も100%以下ぐらいに抑えてやっていかななくてはいけないのではないのか、大変小幅な削減。先ほど伺っていましたら、10年間って聞き間違えでなければ、10年間であったかと思っておりますけれども、たかだか1割減ぐらいということは、先ほど説明にありましたように掛川市は900億円ぐらいの借金を重ねていると、市民一人当たり換算すると八十何万円という、それから将来の負担比率も県内では最悪な状態であります。そういう中で本気でこの改革というのを進めてこられているのかな、誰が借金を返すのかな、そんな印象を持ちました。

それから、グランドデザインに欠けているということですが、先ほど説明の中に持続的な改善に向けた方向性ということをおっしゃいましたが、例えば、病院の問題だとか、それから南北道路の問題だとか、それから駅前のはちよっと触れられましたけれども、合併いたしましたして、掛川市の将来像というのは、海と山と街道をつなぐね、何でしたか、有名、あれをつくるまちというふうになっていたと思うんですけれども、私は南の人間ですので、例えば南北道路の問題、いろいろ言いたいんですけれども、ここで一つだけ、であるならば、例えば公共交通についてですけれども、この横須賀中掛川線が、バスが今年度4月から廃止になりました。廃止になる前に市のほうから説明は、通告ですね、廃止になるっていう通告で、それだけでは納得できないということで、私も行政のほうに来ていただいて説明を伺いましたけれども、その時市の説明は、この掛川中横須賀線を廃止することによって欠損補助が改善されたという説明があったんですね。そういうことで、この行革審というのは、やはり市民の目線で行う事業だと思うんですけれども、そういう目線がね、非常に全市を見据えた市のグランドデザインというのが、非常に欠けているという印象を持ちま

した。以上です。

それから、改革案というのは、行革審の方たちが自分たちでつくられた改革案でしょうか、それとも市のほうでつくられた改革案を基に審議されたんでしょうか。

企画調整課長

はい、ありがとうございます。その他ご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。

それでは、今のご意見、それから質問も一部ありましたが、それにつきまして市側からまず……。それでは、市、それから行革審両方にですね、お話をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

松井市長

座ったままで失礼させていただきます。いろいろご提言がありましたけれども、ランドデザインというちょっと意味がわからないんですけども、基本的には掛川市のまちづくりを進めるのは、総合計画をつくって、それで10年間こうやりますよというまちづくりの基本を定めているわけでありまして、これにつきましては、5年が経過しましたので、今年改めて総合計画を見直すということでありまして。その中で、私がスローガンのように掲げております3つの日本一、それから私のマニフェストに掲げているものを組み込んで総合計画は見直していくという、いずれにしても10年間の掛川市の合併以降のまちづくりは、それがランドデザインだという捉え方をしておりますので、それもみなさんの意見を聴きながら、ある程度修正はもちろんしていくと、こういうことでもあります。

それから、公共事業の関係で大型の事業、病院とか南北道とか、それから再開発、これについては、私の見解を聞くということですか、行革審が……。

質問者

行革審がどのように……。

松井市長

はい。それから、あと削減率が非常に小さいのではないかと、こういうお話であります。見方によりますと、10%とかその程度10年間でですね、そういう数値というのは、一見するともっとできるのではないかとというようなお考えの方が大勢おられると思います。ただ、今の掛川市の財政支出を見ますと、一方では、医療、介護、社会保障関係の経費はどんどん5%ずつ伸びている、片方伸びているということでもありますので、換算すると私は2割ぐらひは、あるいはもっと削った結果でないと収支は合わないというふうに思っています。ですから、ほかの経費が上がらないと、必要経費が増えないと、こういうことであれば、おっしゃるように20%から30%近く削減をしなければその帳尻が合っていないということでもありますので、これはある意味ではしっかりわかるような数値を出す必要があるかと思っております。当然、増で伸びていくものとそれに見合ったものと、当然削っていくもの、というようなものがあります

ので、しっかりしたわかりやすい数値を出さなければいけない。かなりの率で伸びていくものと、そうでないものというものはありますけれども、ほとんどやっぱり経費は伸びてきておりますので、それに見合うというと、新しいニーズに対応する部分を考えますと、両方合わせて20%から25%ぐらいは削減をしていくと、こういうことでないと帳尻が合っていないということでありまして、説明できるような資料を出したいと思います。

田中会長

ご質問ありがとうございます。まず、私のほうからですね、全般的にお答えをさせていただいてですね、各論について、もし委員のメンバーで補足していただければ、その後補足をお願いしたいと思います。

まず、最初ですね、グランドデザインの件ですが、この点については私も市長がおっしゃったとおり市が目指すべき方向性であるとか、あるいはそのために行っていく政策というのは、総合計画に示されているというふうに理解しております。そして、ちょうど1年前の6月ぐらいに市のほうにお願いしていた10年間の財政見通しの数字が出てきました。それを踏まえてやはり昨年8月にですね、先ほどご指摘をいただいた改革の目標数値が出てきたんですけども、そのときに我々審議会の中でも、この目標値のレベルは非常に甘いのではないのかといったような意見が出ました。そういったことを市側に指摘をしたときにですね、市の説明としては、総合計画も含めて今市が考えていることをやるという前提で考えるところこういう見通しになるんだと、というような説明であったと私は記憶をしております。ですから、市が今目論んでいる政策を行うためには、どうしてもああい見通しになる、あるいは目標値になるということなんですけど、我々は未だにですね、やはり少し甘いのではないのか、更というと今回の大震災の結果として、前提条件が変わったのではないかというふうに思っておりますので、先ほどご紹介しましたが、今年度の私たちの取り組むテーマの一つとしてですね、改革目標の検証と設定というものがありますが、それはまさに今市が挙げている目標が妥当かどうかということを検証して、もし甘いとすればもう少しですね、野心的な目標を設定するといったことを提案するという方向性で考えておりますので、明確なお答えにはなっていないんですが、同様の印象は持っている、我々もですね。それについては、これまでは実は対応できていないんですが、今年度の活動を通じて対応していくつもりであるという回答になるかと思っております。

最後ですね、行革審としての市民目線についてなんですけど、これは大変耳が痛いご指摘で、そうお感じになるのも理解ができるころだと思っております。いかなる改革テーマを掲げましても、常に賛否両論ありますし、あるものを削ると必ずですね、それによって影響を受ける方々がいらっしゃる、そういった中で、いかにバランスを取った決定なり提言をしていくのかというのが、この行革審の役割だと思うんですが、その意味では、そうお感じになっているということは、十分受け止めてまいりたいと思っております。実は、この行革審の委員10名おりますが、全員が全く同じ考え方ではございませんで、先ほどお一人ずつの自己紹介を聞いていただくと、微妙にですね、スタンスが違うなというところをお感じだと思うんですね。その辺りは、我々は多数決で決

めるというよりは、十分に話し合っただけですね、一件、一件の結論を出していくということをご心掛けていきたいと思っておりますので、それぞれご不満であったり、あるいはお褒めいただくようなケースもあるかもしれないんですが、行革審として限界があると。ただ、そういった限界を踏まえて今活動をしているということで、ご理解いただきたいと思っております。

その上で、もし各論についてどなたか補足があれば、いかがでしょうか。大型プロジェクトでもあるいは。

米田副会長

すみません、非常によく勉強してらしてですね、我々にとってもご指摘いただきましてありがとうございます。我々が常に言っているのは、先ほど会長も言いましたけれども、グランドデザインですね、松井市長がよく言われている国、県、地方自治体が非常に疲弊している。だから工場が、先ほど鈴木委員が言いましたけれども、海外にどんどんどんどん出て行って、いわゆる税収を上げていかなければですね、自然に放っておくとどんどんどんどん減っていくわけですね。そうすると安心安全なまち掛川に来てもらう、住民が増える、工場が増える、どんどん税収を上げていかなければですね、先ほど言いましたように削減していく、私ども先ほど水谷委員が言いましたように市の職員を削減してはいかんと。我々行革の中にもですね、もっと削減していかないと、議員さんも市の職員も、いわゆる先ほど言いました物件費ですね、人件費、そういったような固定費ですね、こういったものを削減していかないと、借金が多いわけですから、国が一人当たり650万、先ほど言われたように掛川市で一人80万だと、これが増えることはあっても減ることはないわけですね。

ですから、そういった意味で私どもやりました駅前再開発というですね、9億5,300万というのは、補助金の中で一番大きいので、そこをですね、いろいろなしがらみがあるんですが、そのお金を削るといって、有効に活用できることはないのかと、いわゆる赤字じゃなくて黒字を、利益を出せる、こういったことをこれからやらないと、市長が先ほど申しましたように社会保障費がどんどんどんどん増えていくと、こういったようなものに対応できないんじゃないかという危機感は、私ども非常に持っております。ですから、岩崎さんがご指摘になったことを私ども同じように感じている、何とかこれをできないだろうか、ただ削減するだけだと縮小均衡になってしまいますから、税収を上げることを考えて、急がば回れじゃないんですけども、そういったことも必要じゃないのかなと思っております。ありがとうございます。

松本委員

松本です。南部の交通機関ですね、それから南北道路の問題ですけれども、私は支所、そして公共施設の検討のグループに入りまして、もちろんそのグループの中には地元の委員さんもいたんですけども、実際に三現主義と、現場、現実、現象という形で、掛川市役所からですね、大須賀の支所、大東の支所に連れて行っていただきですね、特に大須賀からの市の中心部に行く道路がまだまだ厳しいということがわかりましてですね、当然のことながら南北道路は合併のところのつくるといって条件になっ

ていましたし、6年経ってもまだ見えてないと。そのためにはですね、支所の改革等においてはですね、その南北道路の完成が絶対条件だということも行政のほうにも申しましてですね、今後ともプライオリティは高いところに位置づけにしてあると思っていますし、先だってマスコミのところにもですね、南北道の完成は条件だということも載っておりましたので、私たち行革委員としましてはですね、その早い完成を期待しているところであります。ありがとうございました。

企画調整課長

よろしいでしょうか。

質問者

最後に質問いたしました目標を設定してある改革案ですけどね、これは行革審の方たちが改革案というのを提示されて、じゃないですよ、先ほど行政とおっしゃっていただきましたのでね。それから、病院の問題など、全市的に考えなくてはいけない、駅前開発のこともわかりますけれども、そういったことはもちろん行革審でお話しされたと思うんですけども、できてしまってから、今病院の経営も大変苦しいということが先日新聞で報道されましたけれども、そういうこともやはり話し合われたと思えますけれども、その2点についていかがでしたか。お伺いします。

田中会長

すみません。お答え忘れまして。最初の改革案はどこが出したのかということで、基本的に市のほうに行革審からお願いをして、市のほうで改革案を策定してくださいというのが基本的なお願いをした内容です。ただ、部分的にですね、行革審として審議した事項については、我々が提案を個別にしています。それは例えば、今年1月に出した提言書等に盛り込まれています。ですから、ある意味市側が独自に改革を目指した内容を示している部分と、行革審がお願いしますという形で改革案を提案したという二本立てになっていますが、現状といたしましては、先ほどの市の説明などでは行革審からあった提案も盛り込んだ上で、最新の改革方針ということで、市民の方に説明されているというふうに理解をしております。

それから、病院についてですね、病院についてもこの行革審としても大変気にしております。ただし、これまでですね、行革審として限られた時間の中で、優先順位をつけて何を議論していくかという中で、病院が取り上げられなかったといったような事情がございます。むしろ、駅前再開発を優先的に取り上げたといったようなことで、話題として取り上げてまして、市から説明等を受けたことはあるんですが、本格的な改革の対象としてまだ取り組んでいるには至らないということになっております。今年度も病院については、見て議論していこうということにはなっているんですが、今のところは具体的に提言を出すまでいくかどうかといった辺りが、具体的には決まっていないという状況です。

企画調整課長

その他ございますでしょうか。真ん中の男性の方。

質問者

行革審の基本理念として、一番最後にね、職員のやる気を支援すると、こういうことがあります。そこら辺をね、行革審ではどのような形で検討していただいているのでしょうか。以上です。

企画調整課長

その他、行革審、あるいは市に対するご意見等ございましたら、お願いしたいと思いますが、はい、そちらの男性の方。

質問者

すみませんが、座ってちょっとお話をさせていただきます。今お話を聞きまして、こちらから見ますと右側には行革審の方、左側には市の幹部の方が居られるんですけども、私が今まで市の方とか対応していただいている中で、いろいろ見てみますと、だいたい市のほうの職員の対応というのは、昔に比べれば良くなっているんですけども、こういう改革をやる場合ですね、やっぱり人になると思うんですよ。人になるという意味は、そこで働いている職員の方の改革もなければ、進んでいかないと思います。その人たちが、先ほどPDCA、そういうものは非常に重要なんですけども、いわゆる改革を実際にやるところの人たちの情熱というんですかね、今回は表に対して、市長さんのいろいろな考えのもとからこういう形でやっていきたいというんですけども、中の姿が見えないんですよ。実際に取り組んでいくところの方、それに対して行革の委員の方がどこまで踏み込んでいるのかというのがちょっと見えません。いろいろ目標値とかそういうものをやっていくんですけども、やる人は、今まで長年市の中のいわゆる慣例とか、いろいろな中でやっていくんですけども、そういう中でいかに脱皮してやっていくか、そういうときにはこの前に座っておられる市の幹部の5、6名の方がいると思うんですけども、その人たちの、改革に対しての考えとか、自分たちの意気込みとか取り組みというものが、ちょっと見えませんが、やっぱりそういうところの人まで変わらないと、市民にはいろいろ変わらなきゃいかん、変わらなきゃいかんと言っているんですけども、そこら辺のことをよく聞かせていただきたいと思います。やる人はやっぱり人なんですから、よろしくお願ひします。

企画調整課長

今、お二方からご意見をいただきましたけれども、行革審の会長さんのほうから理念の関係について。

田中会長

今、お二方のコメントというかご質問は関連していると思いますので、両方にお答えする形になるかと思ひます。職員のやる気を支援するという理念を挙げているわけ

なんですけれども、これにつきましては、理念として挙げているので、なるべくそういうことを意識していくということなんです、具体的にいいますと、ちょうど本日浜松市役所が事業仕分けをやっていますけれども、職員を呼びつけです、叱りつけるといようなタイプの行革ではなくてです、むしろ職員の方にいろいろ自分で発想して行革を進めてくださいといったような方向をお願いをして、その結果について我々がいろいろ判断を行う。その際にはやはりです、苦言を呈することも出てくるんですけれども、頭ごなしではなくてです、職員の方が創意工夫をするようなそういう土壌なりをつくってもらいたいということを念頭に置いてやっております。ですから、行革審からはそのような取り組みを進めてくださいということを、再三再四、市側をお願いしております。本来は、やる気を本当に直接です、支援するためには、この場に職員の方を呼んでです、職員と行革審との対話集会などもできればいいんですが、なかなかそこまでは手が回りませんので、今は市のほうでそういったスタンスで対応してくださいということでお願いをしています。

これはお二方目の回答になると思いますけれども、一人一人の市の方がいかにですね、その能力を発揮していくのか、あるいは意識を変えていくのかといったことで、通常行革ですと、今壇上におられるような市の企画部門の担当者が非常に汗をかくということなんです、これも行革審からです、ボトムアップで全職員がこの改革に取り組んでくださいということを、やはり何度もお願いをしています。ですから、市の中で行革を企画部門任せにするということではなくて、市の隅々までです、いろいろな現場の職員が行革に取り組むといったような姿勢で臨むようにといったような方向性をお願いをして、それが何らかの効果があるんじゃないかというふうに、行革審としては、少なくとも私としては期待をしているというところです。

松井市長

それでは、総論的に私の方からお話をして、職員全員というと時間がないので、今回行革担当理事の職を設置いたしましたので、彼の意気込みを後で聞いてもらいたいと思います。この行革の話はですね、先ほども数値目標の数値が低いとかいろいろ言われましたけれども、あるいは職員の志気が全員に行き渡っていないんじゃないかというご指摘もありましたけれども、昨年補助金の整理をさせてもらうというときの経験からしますとですね、総論では行革というのはみなさん賛同していただけます。ところが各論になると、とたんにという言い方か、ほとんどの方がやっぱり反対です。その調整をいかにしっかりきちっと理由を立てて説明をしていく、そのときの数値目標が10年間でこうですと、その綿密な数値を集めて。それから先ほど申し上げましたように、社会保障関係の経費がどんどん伸びていくと。それから、言いませんでしたけれども、新しい病院はつくるということで、225億の財源を袋井市と一緒に調達する、あと運転資金ももちろんあると。トータルの状況の中で進めていく話でありまして、この数値目標を見ても、26年度は逆に増えているんです。そういう中での行革だということで、これについては市民のみなさんの本当に逆にご理解をいただかないと、なかなか進められないという状況であります。

それから行革審のほうからは、かなり手厳しいといえますか、ご意見もいただいて

おります。本当にこんなことできるかなというくらいの、私としては数値目標を定めているというふうに思っております。決意はそういう意味ではおわかりいただきたいと思えます。

松井理事

この4月からですね、行革担当、行政改革を特命としてやることになりました理事の松井と申します。今、我々の意気込みというものが伝わってこない、大変手厳しいですね、ご意見をいただきまして、この職員の意識改革というのはですね、非常にこれは難しい問題だなと私自身実感しておるんですが、行政改革そのものというのは、旧くて新しい課題でございまして、もう30年以上、行革、行革とって唱えられてきまして、その都度無理無駄をなくす、そのために職員一丸となって行政改革を進めようということはずっと進めてきたんですが、なかなかそこに効果が見えてこないというですね、もどかしい部分が市民のみなさまにはあるんじゃないかなあと思えます。そういう意味では、職員の意識改革、これをですね、しっかりと徹底して浸透していけば、行革そのものがですね、ある程度完結していくというような気持ちでおります。

そのためにですね、行革の意識改革をどういうふうに進めていったらいいかということではありますが、やはりその方針としてはやっぱり、市長のトップリーダーの基本的な方針に基づいてやっていくわけなんです、それを実際にやっていくのは職員でございまして、職員のいろいろなところの、先ほどもちょっとお話にでましたけれども、全庁体制で職員全ての方がですね、そういう行革に意識を持って取り組むということが一番大事なわけなんです、そこがどうしてもですね、トップダウンと下からのボトムアップというところでですね、どうしてもそのつながりがついていかないという部分でございまして。今まで。そしてこれは、行革審の方々、この2年間いろいろと熱いご議論をしていただいてですね、我々幹部も職員も目の覚めるようないろいろのご指摘をいただいたわけですが、こういった機会をですね、今のいただいたご提言をしっかりとですね、今の熱い時期にスピード感を持って全庁的に取り組まなくてはいかんということですね、私この4月にきて、そういったことをすごく感じたわけなんです、そういった市長の熱い気持ちもございまして、私はどこの部にも属しておりません。ある意味では部をまたいで、全庁的な中で私が理事としてその辺のことをちゃんと調整していかなくてはならん、職員のやる気も持たせていかなくてはいかん。そういう中でですね、どうしても我々のような歳になってきますと意識改革というのが不得手の部分が、といいますか、なかなか今までの流れがありますと、急遽それを変えていくというのはなかなか難しい局面もあろうかと思えますけれど、私としてはやはり、若手の方々、若い職員の斬新な考え方、そういったものをですね、少しでも多く取り上げていかなくてはいかん、そういったことのためのワーキンググループとか、若手のそういう組織を立ち上げてですね、私が参加せずに若い人たちだけで、行革担当係の方々と話をしてもらって、その意見をまずまとめてもらって、その意見がどういう意見なのか、その意見をですね、まず実現させてあげるようなことが、一つは私の役目ではないかなと。割と行革というのはですね、若い人からいろいろな意見が出てきてもですね、あるところまでくると、幹部、部課長とか

そういった管理職の方に話をつぶされてしまうというのが、これまで多かったんじゃないかなと思います。そういった経過をたどらずに、若手の意見はすべてそのままストレートに私のところに持ってきて、それが実現できていくような、そういったことがですね、ある意味では、職員のやる気をまた引っ張り出してくる一つの方法かなと思っておりますので、そういった目で若手の意見も尊重していきたいと思っております。

いずれにしても、私が今年度そういう特命をもらってこの職で進めていくわけでございます。今年が、そして来年が特に行革審の方々の提言を受けた中である意味正念場、今年、来年しっかりとやらなければ、そしてその効果が出てこなければですね、やはりいけないと思っておりますので、死にもの狂いでがんばってまいりますので、よろしくお願いいたします。

米田副会長

先ほど言われたこと、私はこの高い席に座っているんですけども、私も最初同じ役所仕事と、どうしても行政にいくとおざなりで、9時から5時でというようなそういうイメージを持っておりまして、最初仕分けから入ったわけですね、事業仕分け。私と水谷委員は社会保障、シルバー人材センターだとか、民生委員だとかですね、社会福祉協議会、いわゆる底辺の本当にセーフティネットですね、ここを切ったらちょっとというようなことを「米田、お前やれ。」ということでやりました。そして、福祉に甘えちゃあだめだと、普通の民間の会社じゃあこんなに人が要るわけがないじゃないのか、こんなに事務所が3つも4つもあるんだということを、侃々諤々言いましたらですね、市の幹部の方が、そうなんだ、今我々は国や市から補助金をもらってやっている時代じゃないんだと、自分たちの足で食べていかなくてはいけないんだと。私と口角あわを飛ばして対立する立場だったんですけども、それを市がこれからやらなくてはならないんだと、甘えてはだめなんだということを市の幹部の方が言われて、私はああなんだと、民間と同じように市の人でもわかっている、それを部下に一生懸命言っているんですね。だから行革の人たちが言っているじゃないかと。私はここです、これなら、こういう市の幹部がいるところなら、私も言いづらいことかもしれないけど、どんどん言わなきゃいけない。真剣なんだなと思いました。

先ほども冒頭申し上げましたように、行革審を持っているのが、たぶん浜松と掛川、他にもあるかもしれませんが、じゃないかと思っております。行革審というと市長の諮問機関なんですけれども、私を初め会長、いろいろ民間の経営者だ、税理士だ、元市議員だいろいろな立場の、主婦の方もいるわけですね。そういう人たちがいろいろなことを言いますから、いわゆる身内の恥をさらすようなことも、痛いところを突かれることもあるんですけども、そこを敢えてやれと、やっぱり市の自浄作用だけではだめなんだと、こういう市長の強い意志の表れで、だから私みたいな何も市のことをよくわからないんですけども、ただ民間では非常に、先ほど言われましたように、上からトップが言えば下までトップダウンという、そうやっていかないと組織がもたないわけですよ。十人が十人違うことを考えていたら。そういう中です、組織は人であるとおっしゃった、私も本当にお役所仕事はやめてもらいたいというのでこういう役をやったんですけども、私は1年7ヵ月ですけど、意識が変わってき

ているんじゃないかと。本当にまじめにやってらっしゃる人がだんだん見えてきたと。だから何とかこの掛川をですね、他のまちは赤字でも、夕張市みたいになってもですね、掛川市だけは生き残っていかなければいけないんだと、そのために力を、我々が汗をかけば市の職員もわかっているわけですから。市民の方こうやって私は感心するんですけれども、建設的な意見を言うていただく、こういうことをですね、私ども市民の方から選ばれた議員さんもいらっしゃるんですけれども、私ども何のあれもないんです、保障もないんですけれども、言わなきゃいけないことを言うと、やっぱり一生懸命やっている人たちに、ここに住んでいてここで生計を立てているんですから何とかしなきゃいかんという気持ちは、皆さんと私は同じ。それがだんだん浸透して、大きな組織ですから、今までお役所仕事、親方日の丸だったんですけれども、もう日の丸の旗が燃えちゃってるわけですから、赤字で。こういう時代の認識を、さっき言いましたけれども、会社経営の方みんなわかっているわけですから、それを口を酸っぱくして言うております。本当に私はそういうことが大事なんじゃないかと思っています。

企画調整課長

ありがとうございました。その他、ご意見等ございましたらお願いしたいと思えます。では、そちらの男性の方お願いします。

質問者

よろしくお願ひいたします。まずですね、細かいことですが、いただいた資料の中の3ページでね、一番目目標削減額というのがありますけれども、この中で26年度と31年度のね、金額ってありますよね。金額というのは、これは予算額のことでしょうか。

それとですね、2番目に単位が百万円という数字がありますけれども、企業なんかね、法人税というのがたくさんあるわけですが、最近ね、企業のこういう数字の中には必ず為替レートというのがあるんですよ。10年先の数字をいった場合に、為替レートが入っていたほうがよろしいんじゃないかと思えますけれどもね。

それとですね、先ほど職員の意識改革というお話が出ましたけれども、今の市長さんになってから、僕はものすごく良くなったと思うんですよ。本当にね。電話をした場合にも、1回か2回チャイムが鳴るとすぐ出てくれるところがほとんどなんですよ。その前の時にはなかなかそういう面もなかったんですけれども。それから、アポイントを取ってなくても市に行きますとね、係の方がいればね、必ず出ていただけるんですよ。そういうことが本当にね、意識改革という意味ですばらしくなっていると思います。

最近、共通の項目っていうんですかね、どこで聞いても同じ、例えば袋井の市役所で聞いても同じ、掛川の市役所で聞いても同じというのがね、あってですね、僕も時々袋井に行ったり掛川に行ったりしてみるわけですね。その中でやっぱりね、多少というんですかね、多少のあれですが、課によってだいぶ対応の仕方が違うところがあるわけですよ。はっきり言って袋井のほうがいいところもありますよ。掛川

のほうがいいところもありますよね。そういうのをね、意識の統一というのを図るようなことをね、先ほど松井さんは考えていらっしゃるということをおっしゃいましたけれどもね、今企業の中ではね、どこでも年初に目標カードなんていうのを書くというのはね、当たり前なんですよね。その中でね、意識改革等、誰がやっても同じ仕事ができる、人数が減らせるということをおね、将来的に考えてみれるわけですからね、その場合に目標カードのようなのをね、考えていただければね、専門家に相談していただければそういうカードなんていうのはね、できるものですからね、そういうようなことを考えていただければ、よりいいんじゃないかと思えますね。ちょっと、いろいろ言いましたけれども、そんなようなことです。

企画調整課長

ありがとうございました。その他の方で、じゃあお願いします。

質問者

委員であられる米田さん、大変パッションがあって胸に響きましたけれども。それから、松井さんの、理事のお話を伺って、ちょっとお尋ねしたいんですけど、ボトムアップの市政というところで、理事をなさっているんですよね。行革審の。よくわかりませんが、行革審の理事というのが行政の内部の方でこれはよろしいんでしょうか。ちょっとわかりませんので、教えてください。行革審の方から、田中先生からちょっとお話を伺いたいです。

企画調整課長

ありがとうございました。お二方からご意見、質問等をいただきましたので、市長からお願いいたします。

松井市長

それでは、最初に質問がありました関係で、広域行政の考え方をもっとしっかりしろという、こういう意味のお話だと思いますけれども、いろいろな形でこの中東遠の中で共通した行政課題、あるいは市民サービスについては、もう一緒に仕様でやりましょうよという話を今進めております。もう消防なんかは、通信指令を磐田に一箇所にするとか、あるいは公共バスなんかでもですね、今掛川市内だけじゃくて、袋井までそれが延長していけるようなというようなことも、いろいろな点について広域的で対応できるようにということを今検討して進めております。そういう意味では、逆に言いますと、袋井でも戸籍謄本が取れるというような利便性、すでに今コンビニでは全部取れるようになっているんですけども、自治体間だとなかなか難しい面もありますけれども、いずれにしても、この周辺の自治体と広域連携を結ぶ中で、簡便な利用しやすい事務処理をしていきたいと、こう思っております。

病院ももう全く、この中東遠全体で今度新しく袋井と掛川の新しい病院をつくりますけれども、これが中東遠の核となる病院、あとはいろいろなブランチといいますか、自治体病院がそういう役割を果たし連携を取りながら、どこへ行ってもすぐカルテが、

この中東遠管内の自治体病院にはいくと、届くと、こういうようなシステムを今つくり上げていく努力をしておりますので、いずれにせよおっしゃるとおり掛川市内の中だけで、自己完結するというようなことではなく、本当に広域的にいろいろな対応ができる、それがまさしく行財政改革なんです。そこがないと行財政改革はなかなか進んでいかないと、こういうふうに思っておりますので、努力していきたいと思っております。

松井理事

ご質問で、私の立場はどうなのかということだと思いますけれども、私は掛川市の職員でございます。行革審の立場とはまた別の、掛川市としての立場の理事でございます。行政改革を特命として市長から受けているということでございまして、市で今つくってあります行革の工程表、これは実施計画でございますが、これを着実に職員と一緒に進めていくという立場で、全庁的に私が調整、コントロールしていくという役目でございます。

総務部長

総務部長の川隅と申します。最初にお話ございました債務残高等は決算かどうかということでございますが、決算ということを目標に22年度末の見込額を871億円、31年度末には732億円と、10年間で139億円減少させるという目標値を立てているところでございます。

それから、為替レート等考慮されているかということにつきましては、なかなか行政という立場でそこまで考慮しているというものではございません。

それから、職員の意識改革の中で、課によって対応が違うというようなご指摘もいただいたりしましたが、いろいろこうした場面でのご意見、あるいは地区集会等のご意見等、課の対応、投書を含めましてご意見いただくわけですけれども、そうしたことについては、できるだけ共有化を図ってですね、意思統一、直せるところは直していくという努力を引き続きこれからもしていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

企画調整課長

審議会のみなさまのほうから、何かありましたらお願いしたいと思っております。

田中会長

行革担当理事についてなんですが、今ご本人から説明がありましたので、ことさら私から付け加える必要もないのかもしれませんが、ご説明のあったとおり市側の職員、市側の役職です。ですから、私の理解としては、市の行革の最高責任者は、当然市長なわけなんですが、実務上の責任者が行革担当理事だというふうに理解をしております。ですから、市長はいろいろな案件を全て処理しなければいけませんので、行革に関してはある程度理事の方に実務的な判断なりをお任せになるという、そういう含みがあるのかなと思います。役職を置いて終わりということではなくてですね、ぜひ理

事の方に権限と責任を与えてですね、理事のリーダーシップのもとで行革が進んでいくというような姿をぜひ期待しておりますので、そのように運用をお願いしたいと思います。

企画調整課長

審議会の委員のみなさんから、ございましたらお願いいたします。

鈴木委員

鈴木です。みなさんのご意見を聞いていてですね、私も同じような問題意識を持っているなあと、今の私の問題意識でですね、これからもやっていけばいいのかなと思ってですね、ちょっと意を強くしているというような状態です。

私は、結構厳しくですね、今の状況を見ているなど自分で思っているんですけども、10年先というものを考えると、税金の問題もかなり心配ですし、それから国が地方を助けるということについても、すごく心配だなと思いますし、それから高齢化していったセーフティネットに係る経費もかなり増えていくだろうなど、そんなことを考えますと厳しい状況になるだろうなど、それに対応するためには、かなり大きな変化をですね、行政でしないといけないなというふうに思っています。そういうときにですね、今の目標数値では甘いんじゃないかという話がありましたが、私も実は同感です。もっと厳しくみないといけないなと思いますし、それから仕事の仕方、それも大きく変えていくという必要があるだろうなというふうに思います。今までの市のやり方の常識からどうやって脱皮するかというそんな話がありましたけれども、そこがやっぱり大きなポイントだなあと思っているわけですが、なかなか従来の常識から脱していないというふうに私はみえています。目標そのものはですね、今の組織をやっていきながら達成できる目標というところにまだとどまっているなあとというようなそんな印象を持っております。あと5ヵ月ぐらいですけども、より厳しい数値の設定ができればなあとというふうに思っているんですが、なかなか難しいわけですが、市の職員のみなさんがですね、意識改革をしないといけないような、そんなところを迫るようなですね、そんな目標設定をしていきたいなと私は思っています。以上です。

企画調整課長

はい、その他委員の方からお願いします。

伊藤委員

伊藤でございます。もうちょっと後で話をしようかなと思いがらいたんですけど、だんだんこう気分が高まってきましたので、ちょっと私の考え方を、先ほど来質問があったりする中にですね、やる気だとか、南北道路だとかありましたけれども、私は大須賀を代表してということではないんですが、この行革委員になりましてですね、いろいろ資料を見させていただきました。私自身17年の2月にですね、静岡のほうからここの大須賀のほうへ転居してきたんですけども、その後で新しい1市2

町の新市の建設計画というものをじっくり読ませていただいたんです。

一番最初に私、一丸となったやる気ということを強く言いましたけれども、先ほど来職員のやる気ってでていますけれども、私は市全体がですね、前向きなやる気のあるような市にならないとだめだと、そういうことを考えたときに、旧の大須賀の場合は、新市建設計画を眺めてみますと、いろいろなものですね、これをやりますよとかいろいろある中で、実現されていないんですね。こういうのは、市民のやる気をなくすることであるものですから、私思いますには、とにかく無駄は削減しなければいけない、縮小すべきは縮小するんですが、やっぱり先ほど広域でのということがありましたけれども、特に観光とかですね、商工業とか本当に広域でもって知恵と工夫ですね、静岡空港もできたこともあるし、海外からも呼び込むんだということではがんばらないとね、いけないと。マンネリ化した仕事を毎年やっているようでしたらですね、これは例えば補助金にしても削減やむなしだなんてね、厳しい財政状況の中でということになるかもしれませんが、新しい知恵を絞って施策を考えたときはですね、そこにはもっともお金も投入し、本当に活動も活発にしてですね、いろいろな面で営業的、いってみれば自主財源確保ということでね、私もこれを強く主張しているところなんですけれども、やっぱり企業でいえば売り上げ、その辺りを工夫してがんばってですね、最終的にはそれぞれの市民の方々が、税金としてたくさん納めるという格好にしないと、削減削減なんていって、がまんせえ、がまんせえじゃあね、やる気は起こらないというように考えております。以上です。

企画調整課長

それでは、もうお一方、委員の方からお願いします。

水谷委員

私は、市の職員、自治体の職員の役割というのは、市民が日常生活を健全に送れるように全体に奉仕するというのが、本当の役割だと思います。行革で無駄を減らせ、減らせ、減らせ、賃金も減らせ、職員も減らせ、そういう無駄を省くということはいいと思いますけれども、職員の数を極端に減らす、結果的に正規の職員がどんどん減って、いわば臨時職員の数だけが増えてくる、市民が本当に暮らしに困って市の窓口に行くと、臨時職員がマニュアルに基づいて大変冷たい対応をしてこれでいいのだろうか、市民がまたがっかりして帰ってこなくちゃならんと、これでは何にもならんと思うんですね。本当に一人一人の働く今の市の職員のみなさんが、きちっと役割を発揮できるような環境をつくっていくということが、まず大前提だろうと思います。そこをもう少し考えてみる必要がある。

それから、最近では都市間競争というのはもうないだろうと思います。そういうものを目指すこと自体がどうだろうかと、そういう点で駅前再開発の問題にしても、それから病院の問題にしても、これだけいい病院をつくれれば必ず医師が集まる、これだけりっぱな病院をつくったんだから全国からお医者さんが集まると、そんな時代ではないと思います。ですから、少なくとも最低の経費で最大の効果をねらうという、そういうことを真剣に考えなくてはならんだろうと思います。

さらに、どんどんどんどん高齢化に向かって、実は2004年から、日本の道路に走る車の量がどんどん減ってます。それで、あと50年も経てば、免許証を持つ人間が4割減るそうです。そこまではっきりしているにも拘わらず、まだ道路の建設をどんどん進めていいのだろうか。高速道路なんか、走る人がどんどん無くなってくると思います。こういうものが今、国の流れも含めて、行政改革として考えなくちゃあならんことだと思えます。そういう点で、まだまだ私もこういう中でどんどん意見を述べていきたいと思えますけれども、みなさんと共に貴重な意見をぜひ聴かせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

企画調整課長

ありがとうございます。その他にご意見、ご提案、アイディア等ございましたらお願いしたいと思えますが。それ以外に、先ほどご説明をいたしました資料等のご質問でも構いませんが、今日はみなさまの意見をですね、行革審、あるいは市のほうに生かしていきたいという市民対話集会でございますので、できましたらご意見をいただきたいと思えますが。はい、そちらの男性の方お願いしたいと思えます。

質問者

先ほどからですね、いろいろご意見は出ているんですけども、大型事業とですね、この旧大須賀町の、掛川市においては辺境といえるんですけども、この大型事業にかかる費用とですね、それからこの辺境の福祉にかかるバランスとといいますかね、そういうものをですね、先ほど当初委員の方のお話の中でですね、住民投票を考えたらどうかと、大型事業については。そういうご意見も出たんですけども、そういった辺境のですね、福祉を考えていただく、例えば病院ができてですね、病院へ行くアクセスがないと、こういうことであってはいけないと思うんですね。病院にお金をかけるのであればですね、当然そのアクセスが老人の方もですね、病院にいつでも行けるというようなことが、当然なくてはいけないと思うんですね。ですから、その大型事業にかかる費用とですね、こういった旧大須賀町のですね、辺境部における福祉にかけていただく費用というバランスをですね、ぜひ考えていただきたいと、これ意見でございますけれども、よろしくお願いしたいと思えます。以上です。

企画調整課長

今ご意見を、大型事業の関係と、福祉の関係のバランスと、それから病院、大型事業を実施する場合の交通等に関するご意見等をいただきました。今ご意見、ご質問をいただきましたが、その他ございますでしょうか。それでは、ご意見、ご質問に対して、市側、それから審議会側とご意見ございましたら、お願いしたいと思えます。

松井市長

ご意見、全くそのとおりで思っています。新しい病院をつくって、そのアクセスを全く考えてないということではありません。今、袋井と掛川と一緒にあって、そのアクセスについては、特に大須賀横須賀の場合は、袋井経由というか、あちらのルー

トもありますので、袋井とも一緒になって検討を今進めております。検討の過程でも当然みなさんにお話をさせていただく機会があろうと思います。バランスは当然考えてきております。

企画調整課長

それでは、審議会委員のみなさまのほうから、ありましたらお願いしたいと思いません。

寺嶋委員

今のようにですね、大型事業に係る費用と、それから私も補助金とか委託金を担当いたしましたけれども、その費用、いわゆる補助金等は、みなさんに密接に関係している本当に身近なものなんですけれども、費用の比率がかなり違ふと。委託金、補助金はせいぜいまあ十何パーセントですけれども、今度のような病院はもう200億とか300億近くと言われておりますし、その跡地も30億かけて解体費用云々とかもかかるように言われています。今回1年経ちまして、補助金が1%削減というようなことで、本当身近なところからすごくそれが困ったというような内容のお話も聞いている中で、一方では本当に市民にとって必要かどうかわかりませんが、何百億、何十億といったようなものが簡単に使われているという現状が、本当に市民にとってよいのかどうかということをやっぱり、しっかりこれからも見ていく必要があるという意味で、先ほども出ましたようにしっかり市民の側のチェック機構、第三者のチェック機構が必要なんじゃないかなって思います。これは、そういったシステムをしっかりとつくっていくということが必要だと思えます。

先ほどのように行革審の担当が行政の方ということがありましたけれども、あれは実際に実行するいわゆるドゥのほうは行政のほうであるならば、チェックとか改善のほうをしっかりと第三者機関を設けるということで、行革審のほうでも23年度の最終の予定では、ポスト行革審を継続しておくシステムが必要じゃないかということでも私たちが話し合っ、そういったものをしっかりと置こうということでは、話が進んではいます。入られる方がしっかりしたエキスパートの方に入っ、市民の方云々というのはありますけれども、ですから行政だけに、敵対関係ではないんですけれども、やはりこれからいろいろなことをしていく中では、しっかりその方をお任せするという方で、任せきりというのではなくて、チェック機構もちゃんと置いて初めて健全な行政が出来上がるんだらうと思えますので、そういったシステムづくりをしっかりと、プラン、ドゥ、それからさっき言ったチェックですね、一番これから必要なのはやっぱりチェック、改善、そしてそれが改善されたものが次の年度にはしっかりと生かされて、どんどん改善されて無駄もなくなっていくという、ですからそのシステムづくりがやっぱり一番大事なんだらうと思っ、それをこの残されたところでしっかりと構築していきたいなと思えます。

企画調整課長

その他。行革審の委員の方ありますか。

窪野委員

駅前再開発のビルにですね、掛川市の説明を聞きますと、そこに公共床が入るということで、それは合併時の約束事、もう大東地区、それからここの大須賀地区にはできている、いまいち掛川地区にはできていないから、そこに公共床が必要だという、これは本当に市民のニーズが高くて、市民が必要としているものだという説明でした。ぜひ今日ここでみなさんからご意見を、私はその辺についても伺いたい。本当にみなさんが必要としているものなのか。

そしてもう一点、私は補助金のことを一昨年やらせていただきました。そして5本それを見直させていただいたんですけれども、39年補助金をずっと出しているところがありまして、それは一つ例を挙げますと、地域生涯学習センター活動事業の補助金です。これはみなさんが地区で様々な活動をするために本当に大切な補助金ということは、私も存じております。しかしながら、その補助金には均等割というものが一つありまして、それはもう地区が大きかろうが小さかろうが、均等割ですから一律にお金を分けるということで、それに対して私たちが行革として、それはいくら何でもおかしいのではないかと。地区の小さな130世帯ぐらいのところと、中には4,000近く世帯があるところがあります。そこを均等割にするのはいかなものかと私たちが提言しましたがけれども、その回答としては見直しをされるということで、この23年度にその話をしだしまして、結論は24年度末をもって出されるということで、22年度に検討してほしいということで提言しているにも拘わらず、これだけの時間がかかる、そのスピード感についてもちょっと疑問を感じております。

それと、行政の方がいつもおっしゃるのは、市民サービスが低下する、そういうことをよく言われます。その辺についても、みなさんはどうお考えになるでしょうか。ちょっと、ご意見をお聞かせいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

企画調整課長

ご意見等を今伺っているんですが、その他にございましたらですね、お願いしたいと思っております。今ですね、審議会の委員からですね、今2点ほどについてご意見を聞きたいということがございましたので、それも含めてですね、お願いしたいと思っております。

質問者

私ちょっと質問ということでね、今チェック機能をするということで言っていますが、私もいろいろ市会議員にね、建設委員会とかいろいろあるものですからね、そこで市会議員の人が勉強して、そこでチェックしていただければ、チェックというものをつくらなくてもいいのではないかなと、私は思っていますけれども。以上です。

企画調整課長

ありがとうございます。その他ですね、行革審に対する、あるいは市に対するご

意見、それから今行革審の委員からのですね、再開発の関係等についてご意見を聞きたいということがございましたので、それについてご意見等ございましたら、お願いをしたいと思います。先にご意見を伺いますので。じゃあ、女性の方お願いいたします。

質問者

ただ今、窪野さんのほうからお話がありましたのは、再開発ビルの件ですよ、その中に大東にも大須賀にもできているというのは、何を指しているのでしょうか。

窪野委員

説明が足りなくて申し訳ありません。市民交流センターのことです。

質問者

ですよ、私もそうではないかと思ったんですが、今まで大須賀、大東には市民活動をするみなさんが情報を収集する、あるいは情報提供を市民のみなさんにするそういう場がないということで、大東、大須賀にはつくっていただいたというか、できましたけれど、掛川地区のみなさんに私それぞれちょっと数人の方ですが、そういうものを掛川に必要ですかと伺ったことがあります。そのときに、地区センターというのかしら、生涯学習センターとかいうものがあるので、そういうところを利用するというをおっしゃっていました。だから、何もお金をかけて駅前開発ビルの中に交流センターを、そういう場所を設ける必要はないという方がほとんどでした。この再開発ビルにつきましては、国内各地でこれつくっておりますよね。成功した例がどれだけありますか。ほとんどが赤字を抱えているところばかりじゃないですか。そんな中で、よく掛川市はお金もないと言っているのに、こんなもの建設するんですか。この辺りをぜひ伺ってみたいと思います。

それと、先ほど病院の交通アクセスのことが出ましたよね。これは2、3年後のことになりますが、大須賀では静岡鉄道が、大須賀中掛川と走っていたのが、この3月でなくなりました。この説明は伺っておりますが、説明というか、私たちは第3地区になりますので、第3地区の地域活性化委員の中で、そちらにちょっとおじゃまさせていただいて話を伺ったんですが、なくなると非常に困るということで、大きなバスを使わなくてもね、小さな例えば10人乗りなら10人乗りのバスというものでなくても、例えば大須賀から掛川へ直に、大東から掛川へ直にと、こういうような案というのは出なかったんでしょうか。それと、私たちも今まだ車に乗れるからいいですが、この先何年後かには、やはり車に乗ることができない人たちが、どんどん増えてくるんですよ。その辺りも考えていただきたいということと、あとは市の中のお話で、「大須賀はいいじゃないですか、袋井線があるんだから。」ということをおっしゃったんですが、私たち袋井の市民じゃないんですよ。掛川市民なんですよ。その辺りも考えていただきたいと、私その場でも申し上げましたけれども、行政のほうではどのようにお考えでしょうか。

企画調整課長

ありがとうございました。それでは、お二方のご意見について。

松井市長

私のほうからお答えします。チェック機能の関係ですけれども、議会がチェックをすれば済むのではないかと、こういうご意見であります。一面当然議会は、我々行政がやっているものをしっかりチェックするという機能があるわけでありましたが、市民ニーズが多様化してきておりますので、更なる行革を進めるために広く市民の意見をお聞きをしたいと、こういうことで審議会等々をつくって対応させてもらっているわけでありましてけれども、私としては行財政改革審議会の設置を条例でしておりますので、ここは継続的にこれからもいろいろな意見を聴く機関として活用といいますか、させていただきたいというふうに思っておりますので、いずれにしても、議会とこの審議会、市民の代表である審議会というような形で、両様でチェックをしていただくのがいいのかなあというふうに思っております。

それから、再開発の関係ですけれども、たぶん誤解がいろいろあるんだと思いますけれども、市がつくるということではなくて地権者組合とか再開発組合の人がこういう形の再開発ビルをつくりたいと言ったときに、市がどれだけ支援をしますかと。60億ぐらいお金がかかれば市が今4億5,000万ですか、補助金を出そうと。出すに当たっては、これがきっちり成功しないと、成功しないと市としても補助金を出しませんよと、これはもう議会にお約束をして、議会の議員さんからいろいろ質問があって、安心安全な計画が提案されない限りは、掛川市行政としてはその補助金4億5,000万円は出せませんよというお話をしている。

一方、公共床の関係ですけれども、公共床の関係につきましては、いろいろなご意見がありまして、おっしゃられるような意見の方もおりますので、これについては十分慎重に公共床が必要かどうか検討するというところで、今年度の当初予算からはこの公共床の分は削除いたしました。そういう意味ではしっかり検討して対応していくと、こういうつもりでおります。

それから、バスの関係ですけれども、今いろいろな公共交通バスの見直しをさせていただいております。これは、行政がというよりは、議会もそうですし、市民のみなさんからいろいろ、1台のバスに1人か2人乗っているのはもう違う手法で考えるべきだと、こういう意見もいただき、審議会のご意見もいただいて、これからデマンドタクシーだとかですね、あるいは福祉バスだとかいろいろなものを再検討していくということで、今それらの検討もさせていただいております。ただ、今バス路線を廃止しても、100%不自由にはならないような状況には対応させてもらっているつもりでありますけれども、言われたように高齢化社会がどんどん来て運転ができない人の人口が増えれば、新たな対応も視野に入れながら進めなければいけない、こう思っております。以上であります。

企画調整課長

行革審委員の方からございましたら、お願いしたいと思います。

米田副会長

先ほどの駅前再開発ですね、窪野委員が先ほど指摘しましたんでちょっとダブルかもしれないけれども、私はそのプロジェクトの責任者をやっておりましたので、今資料を見てみますと、平成3年に掛川の駅前の再開発事業が計画が作成されて、それからジャスコが、あるいはそういう大きなですね、ユニーが撤退して、榛村市長のときから駅前を何とかしなきゃいけないと。我々も計画を見せていただいたんですけども、今市長も言いましたけれども、公共床、いわゆる公共の施設、交流センターだとか子育て支援センター、こういったものを入れようと、これの取得費に5億も、先ほど私が冒頭申し上げたようにかかる。こんな必要があるのかということで、いろいろ勉強した。

それだけではだめだというので、去年の12月の6日の月曜日ですね、師走の忙しいときでしたけど、私ども4人の委員、それから市の人も一緒に、企画調整課の人と一緒に沼津のイーラde、それから磐田の天平のまち、それから浜松のザザシティ、これを見てきました。先ほど質問の方がおっしゃったようにみんな赤字ですね、特に沼津のほうは市の幹部の方がですね、説明していただきました。駅前に本当にでっかいのが建っているんですけども、あるいはバスも停留所がそこから始発のがあるんですけども、うまくいってない。

それから隣の隣、磐田の天平のまちは、再開発事業をやられた事業組合の社長さん、会長さんお二人に説明していただきました。これだけ苦労したんだと、やったんだけどやっぱり、公共床も見てきました。子育て支援センターも見てきたんですけども、がらがらなんですよ。市が入っているのは全くだめ。それから写真を12月6日月曜日で師走で、本当は駅前に人がどンドン歩いていなければいけないのに、ちょうど1月の29日田中会長が言いましたように、第1回の市民対話集会で写真を見ていただいたんですけども、それこそジュビロードという、いわゆるサッカーのまちですけども、駅前でサッカーができるような感じ、もうがらんとしているんです。車も通らないような、こんなを見て、あるいはザザシティなんかも、市の人も説明さえできない。解散するのに、20億だ30億、解散するのにお金がかかる。それだけ借金が多いと。

こういうのを見てですね、私どもとしては、4人の委員の中では、やっぱりこれはゴーサインが、先ほど市長がおっしゃった安心安全な計画でなければ、事業計画を出してくださいと言ったんですけども、一向に出てこない。ご自分たちが作られた資料もそうですけど、補助金頼みの、まず補助金ありき、事業計画はここでご存知のとおり自民党時代につくられたものが政権交代した、あるいは2008年のリーマンショック、あるいは今年の3.11ですね、大震災。これでもう補助金どころの話じゃないわけですね。先ほどからいろいろな委員が異口同音に言っております。抜本的なですね、この国の形が変わっている、自治体の形が変わっているときに、そんな駅前にですね、新幹線に乗って名古屋や東京から、あるいは静岡から30分100円の駐車場に車を入れてですね、買うだけのそういう物が、あるいはそういったサービスがあるんでしょかと。普通に考えて市民の方、今日の300人の方お集まりですけれ

ども、本当に成り立つのかなと、こういうですね、素朴な疑問がずっと消えません。ですから、何度も言っているように、そういうことは本当は議員の方がですね、分科会を開いてちゃんとそこで討議していただいたわけですから、そこで明確なメッセージを出していただきたかったんですけれども、私は議員の方に言ったんですけれども、何でもこういう計画をあなたたち通したんだと、言ったんですけれども、専門部会でこうして資料を集めて言われると反対のしようもないんでなあと、こう言う。あなたたち本当にこれが通ると思うのかと、みんな赤字の尻ぬぐいは血税の、我々の税金でやらなくてはいけないんじゃないのかと、テナントが集まらないからバローやパシオスが逃げていった、だから市の公共のものを入れなきゃならないと、300坪ですよ。そんな駅前の高いところにそれだけの必要性があるのかというのを、私はそれこそ市民目線で考えて、当然経営が立ちゆかない、立ちゆかないものをつくったら維持管理費がかかりますから、それはみんな税金で尻ぬぐいしなければならぬ。こんなことは民間ではやれない。こういったことをですね、先ほど言いました窪野委員、それから鈴木委員、水谷委員4人です、本当に熱心に討議して、我々としてはとても安心安全とは言えない、それこそ危険いっぱいだと、こういう気持ちを持っております。ですから、ご指摘されたことはですね、私は本当にそのとおりじゃないのかなと。未だに事業計画が出ておりませんので、コメントのしようがございませぬけれども、そういった意味ではですね、益々環境が厳しくなっているというふうに思っております。以上です。

企画調整課長

はい、ありがとうございました。それでは、続きましてそちらの男性の方お願いいたします。

質問者

話は2つありまして、一つは教育のところ、いわゆる人材育成の話をされて、新しい松井理事さんからいろいろお話されまして、私が考えているところとだいたい一致しまして、それに対しては今後期待したいと思っております。あと、ワーキンググループをつくれるということですから、そこら辺を有機的にですね、左右の、いわゆる縦だけじゃなくて、横の串差しができるような有機的なワーキンググループにしていなければと思っております。それが1点。

あともう一つはですね、窪野さんから話がありました市民サービスについて、市でいろいろ話をした場合、低下するという話があるというのをされましたね。それに対して2つの例を取ってお話ししたいと思います。私が今から言う例は、過剰なサービスというのはもらいたくないわけですよ。他の方はどう捉えるかわかりませぬけれども、私は過剰なサービスと捉えているものがあります。

一点は、市役所へ入ったときに左側に2人の女性が居て受付があります。あれは再三話をしたんですけれども、それが主な話じゃないんですけれども、あれがもう一つのサービスと捉えればサービスになると思っております。あの人たちがどんなお仕事をやっているかというのと、来た人がどこへいけばいいですかというときに、あちらへどうぞ、

こちらへどうぞという案内をやっている。ある程度インフォメーション的な仕事をやっているといます。それと、あとですね、電話をよくかけているわけですよ。わからないから直接本人に聞くのは悪いから、管轄のところの方に聞きましたら、あそこは苦情係で外部から来る苦情をあそこで聞いておりますと、電話を受け付けておりますという話がありました。それに対して、受け付けて、苦情するシステムとしてはなくてははいけません。市役所の中には。けれども、話を聞くとあそこの人たちは委託の方という話を聞いております。ということは、本当は世間からの苦情に対しては、あくまでそのセクションなり設けたところの人が痛みを感じて欲しいと思います。委託の人が本当の市の職員ではなくて、委託の方がいろいろな苦情を聞いて痛みを感じても、直接市の動くところの人が痛みを感じるかということのを思いました。そういうのも一つのサービスだと言われているんですけども、そういうサービスもあるわけですから。

あと、私が先ほどお話ししましたように区長の立場として、立場という大げさですけども、そのような話をしているわけですけども、いわゆる行政から月1回、私の所は桜木といって9区の区があります。そこに市から出た区長会長さんが集まってそこからいろいろ通達が出てきます。今からする話は、その通達に来て、あと桜木の中の通達もありますし、軽自動車のトラックにいっぱいになって、極端に言うと沈むぐらいの資料がくることがあります。極端なことを言うと。それを我々のところへどかんときます。私のところは小区があります。小区へその書類でまた話をするわけですね。延々と。そうしますと、だいたい2時間ぐらいかかるわけですよ。まじめにやると。最近、ちょっとまじめにやってないわけですよ。っということはどういうことかということ、主なところをかいつまんでしか話をしておりません。あとは帰って読んでねとか、それで実際にワーキングする人じゃなくても、福祉からきても分厚い本がきますよ。これ読んでくださいときます。それはいろいろ受け取る人のレベルがあるんですけども、それを見た限りでは、もうこれを見たくないというレベルもあります。要約したもので、見ておいてください区長さん、そういう立場の人には要約したもので十分だと思えます。そういう書類がくるものですから、本当の地区を今後どうするかという議論になかなか発展しません。ということは、それを配っての会合でだいたい終わってしまうんです。他はわかりませんよ。もっと前向きにやっているとところはいっぱいあるかと思えますけれども。非常に、ですからその書類がこんなカラーでいいかね、白黒でもいいんじゃないかねと、1ヵ月前にきたけどまた念を押したような書類も来ますねとか、そういうのがいっぱいありますよ。それでよくポスターに貼ってくださいということで、公会堂にもうポスターが貼れないぐらいのポスターがきたりですね、あれを貼ってください、これを貼ってくださいと。見る人は一人ですよ。公会堂に貼るということは、公会堂に1ヵ月に数回しか集まらないわけですよ。そういうところに貼って本当に啓蒙できるかなというのがいろいろあります。

ですから、サービスでも、どうしてもこれは必要なサービスと、もう過剰に必要以上にね、いただかなくてもいいものはいいんです。そのところを本当に職員なり、その立場の人は、地元に戻れば住民ですよ。自分もそういう立場で見たときに、本当のどれだけのサービスが必要かということのをよく考えてほしいです。以上です。すみま

せん、長くなって。

企画調整課長

その他ですね、行革についてのご提案等ありましたらお願いしたいと思いますが。それでは、女性の方お願いします。

質問者

日本の社会は少子高齢社会になってきてまして、社会構造も全く変わってきている。そういう中で、国もものすごい借金がある、掛川市もものすごい借金がある。そういう中でこの借金というものを次の子どもたち、孫たちに先送りしてはいけないと思うんですね。それから、3.11の大震災がありまして、やはりこの国民もそして掛川市民も、それから議会も行政もほんとに変わらなくてはいけないと思うんですね。今日お話を伺ってまして、まさに市民対話集會にふさわしいね、いろいろな市民からの要望だとか意見が出されてきたと思うんですが、これがガス抜きになってはいけないんですね。今日の会の持ち方なんですけれども、私どもも議論するとき、例えば先ほど地区センターに一律均一に送られてくるのはどうでしょうかねなんて言われましても、そのためにはやはりね、情報の公開っていうか、共通の情報を持ち得てないといけないと思うんですね。

ですから、ぜひこの南のみなさんは、たぶん合併して旧掛川のみなさんと一体感が持てない、今日、みなさん山を越えて来られたと思うんですけれども、私は市の仕事をいくつかやらせていただいて、夜の9時半、10時、山越えで行くんですよね。さすがに怖いです。そういう中で、今日このような市民対話集會、みなさんいろいろな意見もあろうかと思しますので、ぜひですね、いろいろな情報を示していただきながら、この問題とこの問題と特化していただいて、情報をちゃんときちんと流していただいた中で、市のみなさん、そして行革のみなさんとお話しして、そういう機会をぜひつくっていただきたいと思えます。

企画調整課長

お二方のご意見ありがとうございました。

松井市長

それでは、お話のあった市からの通知文書、もっと減らせという、おっしゃるとおりだと思います。減らすように努力したいと思います。ただですね、ただ、通知がきていない、俺のところにこなかったという苦情もすごくくるんですよ。そういう意味で職員も落ちがあっちゃいかんということで、手厚く資料を用意して市民のみなさんに情報伝達をしてもらいたいということで、だんだんだんだん増えちゃうということがありますので、改めて本当に必要な資料を精査して、必要なところに届くようなそういう工夫もしなければいかんと思っていますので、そのように努力をします。

それから、これからもこういう情報のやり取りといいますか、行政、審議会、それから市民のみなさんとの意見交換ができる、あるいは情報交換ができるようにまた工

夫をしていきたいと思っています。

総務部長

総務部長の川隅と申します。庁舎案内の点について、ご意見をいただきました。市役所には様々な方がお見えになりますので、お話のとおり委託ではありますけれども2名を配置しております。そのサービスが過剰かどうか、この点については、あその窓口業務を含めて、引き続きご意見を含めて検討してまいります。1点だけちょっと誤解といいますか、その点についてお話をさせていただきますが、苦情の電話がくるということではなくて、今市役所のほうはそれぞれの課に直通になっておりますが、代表電話というのを持っておりまして、代表へかかってくる場合には、交換といいますか、庁舎案内で対応するということになっておりますので、その中には苦情という部分もあるのかもしれませんが、苦情だけを受けているということではなくて、代表電話の交換的な対応も実はその方々をお願いしているという点をご理解いただければと、というふうに思います。よろしく申し上げます。

企画調整課長

ありがとうございました。審議会のほうからご意見ございましたら、お願いいたします。

石野委員

すみません、石野ですけれども、まず市のほうからですね、資料1のほうで3ページにですね、市のほうから目標設定ということで提示をされております。これにつきましては、冒頭ですね、何人かの委員、それから市民みなさんからもですね、目標設定が低いんじゃないかという意見をいただきました。自分自身としましてもですね、今後また改革のですね、独自の目標設定として検討をしていくワーキンググループBのほうに入っているわけなんですけれども、そこでまた独自のですね、審議会独自としての目標設定をですね、検討していく糧にしていきたいと思うんですけれども。

それで、過去ずっと市、県、国もですね、全て債務がですね、日々ふくれあがっていくばかりで、何十年ずっとそういう態勢を続けてきたわけですね。今はインターネットでもね、借金時計っていつてばかばかばかばか上がっていくんですね。預金の利息だったらよっぽどいいんですけれども、今のこんなに超低金利の時代で、これだけの、例えば十年の目標で100億円の借金残高の削減ということは、この残高を見ますと結局あと50年経っても解消できないんですね。その辺について、非常に私どもとしてもこの公共施設であるとか、補助金、委託料の見直しをですね、進めてどれだけ削減できるのか、というところをですね、また一からやっていきたいなと思うんですが、なにぶん市民のみなさまからのご意見がですね、冒頭何件かあっただけで、この件についてみなさんどのようにお考えになられているのか、もしご意見をいただけたらありがたいなと思います。

企画調整課長

はい、今の石野委員のほうからお話がありましたけれども、それについてご意見ございましたらお願いします。そちらの男性の方をお願いします。

質問者

私、こういう会議に出席するのは初めてですけれども、非常に有意義な集会だなと感じています。今改革目標についてどう思っているかということですが、私は一言で言えば甘いと感じます。というのは前提条件で、②にですね、市税収入が期間中に18%の伸びというのが前提になっているなど。これはちょっと難しいじゃないかと、この先々を考えると。意見が途中でありましたけれども、目標自身も10年間で十数パーセントですか、そうなる原因としては松井市長が言ったようにやっぱりいろいろなところからこれからもね、金がかかると、それはね、確かに事実だろうと。やっぱり、我々の生活の質を上げていく、そのためにやっぱりある金がかかってくるなど。だから、会長さんが言われた、改革推進の審議会の会長さんが言われた無駄を削るだけじゃなくて、やっぱり効率的な使い方を考えていこうと、これがやっぱり一番ポイントだと思います。やっぱり今の時代は、ハードに頼るといのはもう古いと、やっぱりハードからソフトへ、量から質へ、質を上げていかななくてはいけないと。いかに知恵を絞って中身を充実させるか。駅前の再開発の話が出ました。やっぱり99%失敗しているんだらうと思います。だから、敢えてそういうことをするよりは、知恵を絞って、小さくても実がなることをやっぱり考えていくべきではないかなと。

もう一点言わせていただくと、掛川市の職員のみなさんですね、組織は人です。人の教育というのは非常に重要で、だから先ほど言われたように、人のやる気で仕事の成果は全然変わります。だから市の職員には、この掛川市をどうしていくかという夢をね、語ってもらいたい。やっぱりそういう中から、自分たちのやるべき仕事が見えてくるんじゃないかなと。サービスは過剰である必要はない。でもやっぱり必要なものをね、市長が言われたように必要なものを必要な人に届ける、必要な情報を必要な人に届けるということをきちっと考えていく。市の職員の人みんな一生懸命やっているといます。やっていることが成果に繋がるように考えてもらう。だから、市の職員の方は、できるだけ外へ出て、海外も必要でしょう、それから日本の中でも必要でしょう、やっぱりどんどん事例をね、勉強してもらって、市のほうから提案してもらうということが必要じゃないかなと。

もう一つ最後に一つ言わせてもらいますと、やっぱりこの中には市議会の定員削減とかね、そういうのもあってしかるべきだなと。それに代わるものとしてこの審議会なんか非常に有効な手段じゃないかなと僕は感じます。ですから、ぜひね、こういう場をつくってるあんまり他の自治体ではないのかもしれないかもしれませんが、ぜひね、有効にこれを活用して効率的な市の運営を目指していただきたいと思います。以上です。

企画調整課長

はい、ありがとうございます。その他ございますでしょうか。それでは、いただきましたご意見等についてどちらから……。

松井市長

私のほうから。いろいろおっしゃるとおりだというふうに思った点が多かったと。ただ、税収の伸びの18%というのはですね、これは一番掛川市の市税が191億のときをベースにしておりますので、そのぐらい伸びないととてももう掛川市の財政を維持できるという状況にありません。私が市長になったときに、税収がだいたい220億ぐらいのものが、191億ぐらいに減りましたので、それをベースにしておりますので、これはもう18%と4年間でみたときに、そのぐらい市税が上がらなくてはいけない。そのためにも、財源の安定確保という意味で、これは今他の市町ではやっておりませんが、工業団地の造成をしてここに企業誘致をします。まだ9箇所ほどありますけれども、2区画はもう契約ができましたけれども、まだ残っておりますので、そこを積極的に企業誘致をしなければ、これは私は若者の雇用がなければ、この地域の将来発展はないと、こういう観点から、それについては企業を誘致して若者の働ける場所を設けるということで、ここには財政投資をきちっとしていきたい。厳しい財政状況であってもしなければいけないという観点で、今進めております。そういう意味では、安定財源の確保にもですね、これから更に積極的に取り組んでいくと、こういうこと。

それから、そういう面ではハードからソフトと、これもある意味ではハードの部分も必要でありますけれども、これからはハードのものも整備したたくさんの施設がありますけれども、そのソフトをどうつくりあげていくか、でいかにそういう施設をあるいは資産を有効に活用するか、こういうこと。ですから、ソフトに力を入れるこれは当然だというふうに思っています。

それから、市の職員に夢を持たせるために、いろいろなところに視察研修等ということであります。なかなか、海外等に今研修に行くという財政的ゆとりがなかなかないわけでありましてけれども、国のあるいは民間の関係でただでそういう研修ができるというようなものもありますので、いろいろなところにエントリーしながら、職員にも広く視野を広げてもらう、そして掛川市のまちづくりにいい提案をするという、そういう職員を育てていきたいと思っております。私のほうからは以上です。

田中会長

今の方を含めて、最近の流れを踏まえて少しコメントさせていただきます。まず、こういう集会は非常に有意義だというご意見をいただいて、それは本当によかったなと思っております。先ほどの方にもありましたが、このような機会をまた近いうちに設けることができるかどうか検討したいと思っておりますが、ぜひみなさん、本日のアンケートでもいいですし、個別のご意見、ご要望でもいいですから、こういった動きを後押しするという意味合いで、またこういうタイプの集会をやってくれというようなそういうご意見をいただくと、大変ありがたいと思っております。ちなみにですね、10月の半ばぐらいにもう一度やることは、ほぼ決定をしております。これは実は私たちの任期が11月末で終わりますので、その前の、2年間の活動報告という形になるかと思っておりますが、その段階では、もう私たちの任期は残っておりませんので、もしその前に何かご希望されるということであれば、ぜひですね、別途ご意見をいただきたい

と思います。

それから、行革審の審議会自体は、通常平日の夜間を使って開催しておりまして、これはみなさんなかなかですね、お越しになりにくい曜日なり、時間帯になっているのかと思います。ただ、常に公開がされておりますので、ご都合がつく場合にはぜひですね、審議会の場には足を運びいただければと思います。

それから、私のスライドの最後に行革審のホームページの所在もご紹介しておきましたが、行革審の会議で配付される資料は、原則すべてがPDF等によって公開されておりますので、それも随時ご覧いただけます。これ、一つのお知らせです。

それから、駅前再開発事業につきまして、いろいろご意見なりをいただいておりますが、昨年については、事業計画が出ていないのでそれを待って結論を出そうということで、結論まで出すには至っておりませんが、今年度、私たちは任期があと半年弱ですので、事業計画が出る出ないの有無に拘わらずですね、行革審としての結論は出すということで、我々委員の間で同意をしております。

それから、市の資料の2枚目、3枚目のスライドにある目標値ですが、これが非常に甘いのではないかというご指摘は再三いただいております。我々もそういう印象を持っているということをお話ししましたが、この計算の前提となっている市税等の見込みも非常に甘いと思っておりますので、そういうことを踏まえると、ここに挙がっている目標すら達成できないという可能性すらあるわけです。ただ、一方で債務を減らす、あるいは経常収支比率を改善していくということを行うためには、どこかで必ず削らなくてはいけない部分が出てまいります。例えば、手っ取り早いという大変申し訳ないんですが、即効性があるのはやはり職員の削減であるとか、給与カットということになると思うんですが、我々はそういうことを簡単にやるということがいいとは決して思っておりません。

それから、いろいろな行政サービスの削減、それから今検討ないし継続中の公共事業等の中止、ないしは廃止ということで、いずれにしても、これより高い目標値を目指すためには、何らかの痛みは伴うということですので、その辺りも含めて検討していく必要があるというふうに思っております。ですから、決して簡単な判断ではないと思いますけれども、その辺りにつきましては、みなさんのご意見を引き続きいただきながらですね、行革審として議論を進めて、何らか結論を出していきたいと思っております。

そういう意味では、先ほどもお願いいたしました、みなさんからぜひですね、いろいろなご意見、ご要望をいただきたいと思っております。特定の案件につきまして、何らかの賛成なり反対意見でも構わないですし、あるいはこういうことがあったという情報提供でも構いません。特に、反対意見等で意見をいただく場合にはですね、例えば何か理由のようなものを付けていただけると、我々大変参考になります。そういうことで、ぜひ今後ともですね、ご意見、ご要望等お願いしたいと思います。

企画調整課長

ありがとうございました。みなさま方と意見交換を進めて1時間45分ぐらい経ちますが、時間も経ちますので、あとお一人かお二人、意見等ございましたらお願いし

たいと思いますが、よろしく願いいたします。では、前の方どうぞ。

質問者

実は私役場の職員をしまして、コーニングジャパンを誘致した経験がありますが、我々はこのまちにしか住んでいなくて、私は特に外に出たことはないですが、外資系の企業のみなさんは、特に大須賀町とか掛川はすばらしい地区だと、みんなそういう認識をしています。どうしてそんなにすばらしいかということ、本当にすばらしいということで、コーニングは長野県に進出計画を計画していましたが、断念してあそこの場所に進出しています。それほどすばらしいところですので、今松井市長が言いましたように、企業の誘致はすばらしいところだということを市の職員が方々に行って売り込んで、積極的にやってほしいと思います。

ただ一つ心配なのが、掛川の90%が浜岡の原発から30km以内に入っているということを言われましたので、そのすばらしいところが今度最悪の場所だというふうに変わらないかという恐れが一つありますが、その辺をちょっと参考にしてください。あまり参考にはならないかもしれませんが、外資系の特にコーニングなんかの社長は、みんなから「おまえは、どうして掛川のあるところに行くようになったのか。」とたびたび質問を受けたというのがありますので、その辺も参考に市役所の職員はいい企業を誘致するようにがんばってください。以上です。

企画調整課長

その他ですね、ご意見、もうお一方ぐらいご意見ございましたら、お願いしたいと思いますが、ありがとうございます。それでは、ご意見をいただきましたことについて、ございましたらお願いしたいと思います。

松井市長

大変すばらしいところだと、特に交通インフラというか、これはもう日本一だと。これはもう、新幹線があって、東名があって、新東名ができて、それから空港が近くにできた、御前崎港もあると。この交通の立地条件というのは、全国どこに行っても掛川以上のところはないと、こう思っております。そういう意味ではこのすばらしい立地条件を活かして、良い企業にきてもらう、こういう努力をしなければいけない。

一方、私がこの掛川市のすばらしさを訴えるときに、新幹線から降りてすぐ田園がある、田んぼがある、茶畑がある、こういうところもまた他にはない。だからこのまさしく山があって、田園があって、都市があって、海があると、このすばらしいロケーション、環境は守っていかなくてはならない。そういう中で本当にすばらしい企業が誘致できるよう努力して行きたい。そのためには、今言ったようなことを職員と一緒にやって宣伝をしております。お茶とセットでいろいろ掛川の紹介をしているものも全国に今提供をさせてもらっていますので、ぜひ市民のみなさんもですね、今日お集まりのみなさんも、やあこんな企業がというのがありましたら、どんな情報でも結構ですので、一報を入れていただければ、すぐ職員を派遣する、企業に行く、そういう態勢をとっておりますので、どんな情報でも結構であります。本当に掛川市の将来

を考えたときに、いい企業がきて若者がそこで働ける場を確保する、これが今の掛川市の行政課題の最重要課題の一つ。

掛川の中小企業のみなさんも、どんどん生産拠点を海外に移してしまう、こういうようなこともあって、この歯止めに対してもしっかき対応してきております。それから、この企業誘致の関係におきましては、東京事務所にも職員を出向させまして、あそこでも誘致活動をやっております。いずれにせよ、企業が来ていただけると、こういうことが将来の発展に繋がるというふうに思っておりますので、ぜひよろしく願いをしたいということと、もう最後でいいの。最後に一言付け加えて……。

企画調整課長

最後に、市長とそれから会長にお願いしたいと思ひます。ありがとうございました。先ほどご説明したとおりお手元に市民のみなさまのご意見をお聞かせくださいと、アンケートがございますので、本日発言、提案等できなかつた方につきましてはですね、これに記入していただいて、受付のほうにですね、最後に出していただきたいと思ひます。回収箱を用意してございますので、そちらのほうにお願いしたいと思ひます。

6 閉 会

企画調整課長

それでは、次第の最後になりますか、閉会にあたりまして審議会長、それから松井市長よりご挨拶を申し上げます。それでは、先に会長からお願いしたいと思ひます。よろしく願いいたします。

田中会長

本日は、長時間にわたりましてご活発にご意見いただきまして、誠にありがとうございます。もう言いたいことは、私は今日いろいろお伝えしましたので、一言、ぜひですね、市政に関心を持っていただいて、それを直接ですね、審議会あるいは市のほうにお寄せいただきたいということで、ぜひよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

企画調整課長

それでは、市長よろしく願いいたします。

松井市長

長時間ありがとうございました。いろんなご意見をいただきました。市政運営に反映させていきたいと、こう思っております。特に行革を進めるにあたっては、今年度から、先程本人から話をしましたけど、行革担当理事を設置した。そして掛川市の行

政をどうこれから改革推進をしていくかというポジションを理事という1番高いポジションのものを配置したということで、私の行革に対する熱意といいますか、意気込みといいますか、まずご理解をいただきたいと思います。

行革を進めていくにあたって、まさしくいろんな意見の方が多いということ。賛否両論だけでなく、こういう考え、こういう考え、こういう考え、いろんな方がおります。片方の方は進めるべきだ。これはやっぱり残さなきゃいかん。その調整を最終的には行政側がさせてもらおうと。もちろん多くの市民のみなさん、それを受けた審議会の意見。そういうことを踏まえますけれども、最終的には行政のトップの私が決断をして進める。いろんな意見をどう調整するかということが、大変難しいわけでありましてけれども、行革審の意見を尊重するということも含めて、避けて通れないことでもありますので、努力をしていきたいと思っておりますので、更なる皆様のご意見をいただきたいと思いますということを申し上げまして私からの最後の挨拶とさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

企画調整課長

ありがとうございました。本日予定しておりましたものはすべて終了いたしました。以上をもちまして、市民対話集会を終了いたします。本日はどうも誠にありがとうございました。